⟨人間に生まれ変わるため 人生３周目を生き直していた近藤麻美⟩

⟨テレビ局で ドラマの制作をしながら徳を積んでいましたが…⟩

⟨そこで告げられた来世は…⟩

(受付係) ムラサキウニですね｡

(麻美) もう１回やり直せますか？

(受付係) できますよ｡

⟨こうして 人生４周目がスタート⟩

⟨莫大な徳を積むべく勉強に励んだら…⟩

(麻美) ⟨気を使われている⟩

⟨なっちと みーぽんとの 関係に変化が⟩

⟨人生４周目 何だかいろいろありそうです⟩

＼こんにちは！／ ＼いらっしゃい／

(夏希) ねぇ 今期のドラマどう？

(美穂) やっぱ“かのこじ”じゃない｡

(夏希) あ～ “かのこじ”だね｡

(美穂) うん うちのお父さん 普段ドラマ 全然 見ないけど“かのこじ”は見てるもん｡

(夏希) うちも 家族全員 見てる｡

(麻美)“かのこじ”？

(夏希) うん｡

(美穂) あーちん 見てないの？

(麻美) あ～ うん… え…？

“かのこじ”？

(美穂)“彼女は個人事業主”｡

(麻美) へぇ～…｡

(美穂) 絶対 見たほうがいいよ｡

(夏希) うん うん｡

(麻美) あ～ そうなんだ へぇ…｡

(夏希) あとは… “６人のテレアポ”かな｡

(美穂) うん 面白い！

(麻美)“６人のテレアポ”？

(夏希) 見てない？

(麻美) うん ちょっと知らないな それは｡

(美穂) 面白いよ｡

(夏希) うん 面白い｡

(美穂) ねっ｡

マツフネがカッコいいんだよね｡

(夏希) あ～ カッコいい｡

(麻美) マツフネ…｡

(夏希) 松林船彦｡

(麻美) 松林船彦… って誰だっけ？

(美穂) え？ ほら 元シーフードボーイズの｡

(麻美) 元シーフードボーイズ？

(美穂) 今期は この２つか｡

(夏希) うん そうだね｡

(美穂) うん｡

(麻美)“ブラッシュアップライフ”は どう？

“ブラッシュアップライフ”！

(夏希) ん？ 何だっけ それ｡

(麻美) 私が プロデューサーやってるドラマ｡

(夏希:美穂) あ～！

(美穂) やってたね～｡

(麻美) えっ 見てくれた？

(夏希) 見た見た見た…｡

(美穂) もち もち｡

(麻美) どうだった？

(夏希:美穂) あ～…｡

(夏希) え… でも… 臼田あさ美ちゃん キレイだったよね｡

(美穂) キレイだった！ ね～！

(夏希) ね～！

(麻美) そうだね… お話はどう？

(夏希:美穂) あ～…｡

(美穂) でも何か映像がオシャレだったよ｡

(夏希) うん オシャレだった｡

(美穂) オシャレだった｡

(麻美)｢でも｣って何？

(美穂) ん？

(麻美) さっきからさ ｢でも｣って 何に対しての｢でも｣？

つまんなかった？

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～ “夕焼け小焼け”

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～ “夕焼け小焼け”

(夏希) そろそろ行く？

(美穂) 行こっか｡(夏希) ねっ｡

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

(麻美) ねぇ つまんなかった？

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～ ねぇってば｡

(ｽﾋﾟｰｶｰ)♪～

♪～ “負けないで”

♪～ “負けないで”

(麻美) 待って…｡

待ってってば！

♪～ ふとした瞬間に

♪～ 視線がぶつかる

♪～ 幸福のときめき

♪～ 覚えているでしょ

♪～ パステルカラーの季節に >> 恋した

♪～ あの日のように 輝いてる

♪～ あなたでいてね

♪～ 負けないで もう少し

♪～ 最後まで 走り抜けて

♪～ どんなに 離れてても

♪～ 心は そばにいるわ

♪～ 追いかけて 遥かな

(目覚まし時計のベル)

(麻美) ⟨４度目の中学時代⟩

⟨合計すると110歳くらい⟩

(麻美) ⟨そんなに生きてもこの時期は父親に ちゃんとイライラする⟩

(寛) ほら～｡

(麻美) ⟨“伊東家”で見た裏ワザを 即取り入れる感じとか…⟩

(久美子) お待たせ さぁ いただきましょう｡

はい 遥 肘つかないの｡

(遥) はい｡

(麻美) ⟨毎回 早めにおかずがなくなって 後半ご飯だけで食べる感じとか何もかもがウザく感じるけど…⟩

(寛) 何？

(麻美) ⟨110歳の理性で 完璧に押さえ込んでいる⟩

>> 遥 ウインナーちょうだい｡

(遥) やだ｡

♪～

(麻美) ⟨今回 先生からは 私立の中学を勧められたけど両親に 負担をかけたくなかったので今までと同じ 公立に通うことにした⟩

(美穂) あっ 知ってる？ 霞通りにある うどん屋さん つぶれたんだって｡

(夏希) えっ？ 柏木うどん？

(美穂) そう｡

(夏希) そうなの？ 知らなかった｡

(美穂) 数えるぐらいしか 行ったことないけどなくなるってなると寂しいよね｡

(夏希) うん 寂しいね うち 法事の後とかによくあそこで うどん食べてたんだよね｡

(美穂) へぇ～ そうなんだ｡

(麻美) おはよ｡

(夏希) 麻美ちゃん おはよう｡

(美穂) おはよう｡

(夏希) てか うどん屋さんつぶれて 何になるの？

(美穂) 何かね 噂ではﾀﾞｲﾆﾝｸﾞｶﾌｪらしいよ｡

(夏希) え～！ 超いいじゃん！

(麻美) ⟨２人とは 小学校の時に 仲良くなり損ねたせいでそれ以降も 距離を縮められずにいた⟩

⟨そんな寂しさを振り払うように 私は勉強に打ち込んだ⟩

⟨その結果学年トップの成績になり ついに宇野真里超えを果たした⟩

⟨ただ…⟩

(夏希) 先週の“ヤンボコ”見た？

(美穂) 見たに決まってんじゃん！

(麻美) ⟨学校生活は あまり楽しくなかった⟩

(美穂) 竹野内 豊 最高じゃなかった？ >> 分かる イケメンだよね マジで｡

(生徒) 私 市原君派なんだよね｡

(美穂) えっ？

(麻美) ⟨そんな中 予定通り ラウンドワンが出来た⟩

(美穂)〔デカっ〕

(夏希)〔何か地元じゃないみたい〕

(麻美)〔すごいね〕

(美穂) ジャ～ン｡

(夏希) いいじゃん｡

みーぽん 何？ このポーズ｡

(美穂) なっちがこれしようって言った…｡

(麻美) ⟨あそこに 入れなかったということは…⟩

(美穂)〔ジャ～ン〕

(夏希)〔う～わ 超懐かしい〕

(麻美) ⟨あの未来も 訪れないということ⟩

(真里) 麻美ちゃん？

(麻美) おぉ 真里ちゃん｡

(真里) １人？

(麻美) うん 何か たまたま通りかかったからさ｡

>> そっか 私もなんだよね｡

(麻美) そうなんだ｡

>> すごいよね ここ｡

(麻美) 何か地元じゃないみたい｡

だよね あ… 一緒にプリ撮らない？

(麻美) うん 撮ろ撮ろ｡

>> よかった 断られなくて｡

(麻美) 断んないよ｡

撮ろ？

(真里) うん｡

(ﾌﾟﾘﾝﾄｼｰﾙ機) ２･１…｡

(麻美) 丁寧だね｡

(真里) はい｡

(麻美) ありがと｡

ねぇ これ良くない？

こっちのほうが ２人とも盛れてるね｡

(麻美) 盛れてる｡

アハハ…｡ >> いい感じ フフフ…｡

(麻美) 行こっか？ >> うん｡

あ～ いったんトイレ行ってもいい？

(麻美) いいよ ここにいるね｡ >> うん｡

(真里) 何か楽しいものが 全部そろってる感じだよね｡

今までイオンくらいしか 遊ぶとこなかったもんね｡

(麻美) だよね～｡

>> てかもう住みたいんだけど｡

(麻美) あ～ 住みたいね｡

>> 住むとしたら どのフロアにする？

(麻美) フロア？

うん やっぱ カラオケじゃない？

ソファあるし エアコンあるから｡

(麻美) あぁ そのままの状態で住むってこと？

うん えっ？ 違った？

(麻美) 私 あの上がホテルみたいな 感じになって住むイメージだった｡

そういうことね それ 超いいね｡

(麻美) てか カラオケボックスに住むの 大変そうじゃん｡

確かに！

あっ 麻美ちゃん こっち？

(麻美) うん｡

そっか｡

また学校でも話しかけていい？

(麻美) うん もちろん｡ >> よかった！

じゃあね｡

(麻美) うん バイバイ｡

バイバイ｡

(麻美) ⟨真里ちゃんは 思っていたよりも ずっと気さくで話しやすい子だった⟩

(真里) おはよう！

(麻美) お～ おはよう｡

>> あーちん 昨日の“トリビア”見た？

(麻美) 見た｡

⟨あの日以来 私は まりりんと仲良くなった⟩

⟨ちなみに 成績はずっとトップで…⟩

生徒会より 連絡事項があります｡

⟨さらに 生徒会長にも就任⟩

⟨まりりんが副会長となり２人で絵に描いたような優等生 として中学生活を終えた⟩

⟨高校は 県内トップの偏差値を誇る進学校に入学し…⟩

(先生) はい 正解｡

(麻美) ⟨ここでも 学年トップの成績になった⟩

(麻美) ⟨この４年後にノーベル賞か⟩

⟨これは 徳の量もすごいだろうな⟩

(麻美) ⟨高校卒業後国立大学の医学部に入学⟩

♪～

(麻美) ⟨２回目の東京１人暮らし⟩

(麻美) ⟨前回よりも狭いけど ここはここで気に入っている⟩

(麻美) ⟨そして４度目の成人式⟩

(美穂) かわいい… ホントだ バラみたいになってる｡

(夏希) かわいいでしょ？

(美穂) かわいい｡

(麻美)〔ごめん！ お待たせ～〕

(美穂)〔いいね～〕

(麻美)〔めっちゃかわいい！〕

(美穂)〔似合ってる〕

(麻美)〔盛ってる〕

あーちん！

(麻美) あ～！ まりりん！ >> 久しぶり～！

〔あーちん 昨日の“ﾄﾘﾋﾞｱ”見た？〕

(麻美)〔見た〕

⟨まりりんと５年ぶりの再会⟩

(市長) 新成人の皆さん おめでとうございます｡

輝かしい未来を切り開いて…｡

(男) おい そうじゃねえだろ ジジイ！

つまんねえ話 してんじゃねえぞ｡

(男) よっ 待ってました～！

ウェ～イ！ ウェ～イ！

(麻美) 威力業務妨害罪かな？

う～ん 市の職員もいるから 公務執行妨害になるんじゃない？

(麻美) じゃああれだ ３年以下の懲役か 50万円以下の罰金とかかな｡

(真里) そうだね｡

いったん帰されて 後で親と一緒に 出頭するパターンじゃない？

(麻美) その後の調べで 目立ちたかった やり過ぎた～と反省だ｡

あと 会社によってはクビだろうね｡

学生でも何かしらの 処分はあるんだろうけど｡

(麻美) すごい覚悟だね｡ >> そうだね｡

たった数分間 目立ちたいがために｡

(麻美) 気合い入ってんな～｡

⟨来世が 微生物の覚悟はないだろうけど⟩

(真里) あーちん 写真撮ろう｡

(麻美) 撮ろう｡

いくよ ここでいいかな…｡

はい… はい チーズ｡ 📱(カメラのシャッター音)

イェ～イ 後で送るね｡

(麻美) うんうん｡

(美佐) えっ？ ねぇ… 久しぶり～！

あ～ 久しぶり！

(美佐) 久しぶり 元気？

久しぶり ねぇねぇ あのさこの後 西中メンバーで カラオケ行くんだけど２人も来ない？ >> どうする？

(麻美) うん 行こっか｡ >> 行こっか うん｡

(美佐) ＯＫ｡

(麻美) うん 行く行く｡

(福田)♪～ イケナイ太陽

♪～ Ｎａ Ｎａ

(麻美) ⟨今回 初めて まりりんも参加⟩

⟨そして恒例のイケテナイ太陽⟩

マジで俺 音楽業界 変えてやろうと思っててさ｡

(一同) おぉ～！

(静香) 福ちゃんなら いけるよ！

(加藤) 俺ら 保証する｡

(美穂) 私も応援する！

(夏希) あっ 私もＣＤ買う｡

(美佐) 買う買う！ めっちゃ宣伝するね！

(麻美) ⟨ウレナイ太陽⟩

(ﾌﾟﾚｰﾔｰ)〔♪～ アイラブユーが〕

(美穂)〔ダサくね？〕

(夏希)〔ダサい…〕

(美穂) 福ちゃんならね 東京ドームいけると思うわ｡

(夏希) いけるいける！ >> ドーム いけるか…｡

(麻美) ⟨セツナイ太陽⟩

>> あーちん｡

(麻美) コンタクト取っちゃった｡

>> 痛かった？

(麻美) うん｡

大丈夫？ 飲み過ぎてない？ >> ううん 全然平気｡

ねぇねぇ あーちん あーちん… ちょっと ちょっと…｡

どう思う？

(麻美) どう思う？

>> 福ちゃん｡

(麻美) 福ちゃん？

>> あれでプロは厳しいよね？

(麻美) あ～…｡

そうだね｡

⟨さすが まりりん 冷静⟩

てかさ みんなもよくないよね｡

(麻美) みんな？ >> ああやってチヤホヤするからさ勘違いしちゃってる部分も あると思うんだよね｡

(麻美) まぁ 福ちゃんもね 単純なところあるからね｡

>> 私 言おうかな｡

(麻美) えっ？ 何て？

いや 無理だと思うよって｡

(麻美) え～ ちょっと それはストレート過ぎない？

もちろんさ 最終的には本人の判断だけどさでも １人ぐらい厳しいこと 言ってあげる人がいたほうがいいと思うんだよね｡

(麻美) う～ん…｡

⟨まずい これで福ちゃんの気が 変わるようなことがあったらあの子が 生まれなくなるかもしれない⟩

いや～…｡

本人も そう簡単に売れるとは 思ってないと思うよ｡

ホント？ ｢音楽業界 変える｣とか 言ってたよ？

(麻美) それは リップサービスでしょ｡

そうかなぁ？

(麻美) それにさ 普通に売れるだけが 幸せじゃないと思うんだよね｡

挫折して学ぶこともあると思うし｡

そうだけどさぁ｡

(麻美) だから うちらは 売れても売れなくても幼なじみとして応援してあげたら いいんじゃないかな？

そっか｡

じゃあ 応援するか｡

(麻美) うんうん それがいいと思う｡

⟨危っぶね⟩

じゃあ行こう｡ >> 私ね トイレ｡

(麻美) じゃあ 先 行ってるね｡ >> うんうん｡

(麻美) ⟨何とか福ちゃんの未来は 変えずに…⟩

(福田) じゃあ 俺 受けるね｡

(静香) うん｡

は～い｡

(福田) はい｡

(静香) いった？

(福田) はい ＯＫ｡

(麻美) ⟨一瞬 イラっとしたけど これはこれで必要な工程⟩

(加藤)♪～ 粉雪 ねえ

♪～ 一人じゃないから

(麻美) ⟨久しぶりのこの並び⟩

(夏希) 麻美ちゃん 中学校以来だよね？

(美穂) うんうん｡

(夏希) だよね｡

(麻美) ２人 全然 変わんないね｡

(夏希) ホント？

(美穂) 麻美ちゃんも変わんないよ｡

(麻美) 変わんない？

(夏希:美穂) 変わんない｡

(麻美) ⟨関係性は変わっちゃったけど⟩

(美穂) ねぇねぇ 今ってさ 東央国立大学 通ってんだっけ？

(麻美) そうそうそう…｡

(夏希:美穂) すごいね～！

(麻美) いや全然すごくないよ｡

(夏希) いや すごいよ｡

しかも医学部でしょ？

(麻美) うん｡

(美穂) ヤバ～！

(夏希) すご～い！

麻美ちゃん ずっと成績トップだったもんね｡

(美穂) トップだった うちらとはさ 次元違ったよね｡

(麻美) そんなことないよ～｡ ⟨生きてる回数が違うだけ⟩

(夏希) マジで 麻美ちゃん タイムリープ説あったからね｡

(美穂) あ～！

(夏希) あったよね｡

(美穂) 言ってたね！ 人生２周目じゃない？って｡

(麻美) そんなこと言われてたの？ 全然 知らなかったよ｡

⟨２周目どころか ４周目だけどね⟩

(夏希) でもさ 誇らしいよね こんなさ 同級生で すごい人いて｡

(美穂) それはあるね 自慢の同級生だもん｡

うちらとか会ってもらえない…｡

(夏希) 会ってもらえない…｡

(麻美) ⟨せっかく話せたのに こうやって持ち上げられると何だか寂しく…⟩

⟨ってか うるせぇな あいつ！⟩

♪～ 私がキミを守るから

♪～ あなたの笑う

(麻美) ⟨刺さってる…⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “スパークル”

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “スパークル”

(麻美) ⟨大学卒業後 医師免許を取得した私は(ｲﾔﾎﾝ)♪～ ２年間の臨床研究を受けた後 大学院に進学し(ｲﾔﾎﾝ)♪～ 研究医を目指した⟩

⟨研究医の魅力は世の中でまだ知られていない 現象を解明できる可能性があること⟩

⟨そんなことができれば 将来の医学に貢献できるし多くの命だって 救えるかもしれない⟩

⟨つまり…⟩

〔おめでとうございます 人間です〕

(麻美)〔ありがとうございます〕

⟨人間も夢じゃ ない⟩

⟨もちろん定期ミッションも 忘れてはいない⟩

⟨玲奈パパの件に続く定期ミッションその２ ミタコングの救出⟩

⟨それにしても 徳のためとはいえまた２人で電車に乗って苦労話を 聞かなきゃいけないのは正直だる…⟩

(静香) 麻美ちゃん？

(麻美) しーちゃん｡

>> あ～ お久しぶり｡

(麻美) お久しぶり｡

⟨これもあったのは忘れてた⟩

(静香) 待ち合わせ？

(麻美) あっ うん しーちゃんは？

>> 私は 仕事終わって帰るとこ｡

(麻美) そっか｡

福ちゃん元気？ >> 元気だよ｡

まぁ音楽のほうは さっぱりだけどね｡

(麻美) そっか そうだね なかなか難しいよね｡

私は そろそろ現実 見てほしい って思ってんだけどね｡

(麻美) 生活があるもんね～｡

でも あんま言うとさ ケンカになっちゃうからさ｡

(麻美) う～ん そっかそっか 言いづらい空気なんだね｡

そう… ホントはさ 子供も欲しいんだけど売れるまではつくれない って言うからさ｡

(麻美) ⟨こればっかりは 何も言ってあげられない⟩

でもさ 両親は会うたびに早く孫が見たい って言ってくんだよね｡

(麻美) そっか それはつらいね…｡ >> そう｡

(麻美) ⟨もう少し聞いてあげたいけど今からミタコング 助けなきゃ いけないから そろそろ…⟩

⟨ん？ そうだ⟩

ん～ まぁ ちょっと結婚してない 私が言うのもあれなんだけどさもし しーちゃんが ホンットに つらいんだったら別れることを視野に入れても いいんじゃないかな｡

あぁ…｡

まぁ そうだよね いや実は ここだけの話離婚も考えてんだよね｡

(麻美) まぁ 考えるよね｡ >> そう｡

(麻美) ⟨ここはあえて引っ張る⟩

でもね…｡ >> うん？

(麻美) 離婚を選択するっていうのは 決して悪いことではないと思う｡

ただ正直 決断するんだったら20代のうちのほうが いいかなとは思う｡

そうだよね｡

(麻美) 福ちゃんには そういう話はしてるの？

いや さすがに ここまでの話はしてない｡

(麻美) そっかそっか…｡

⟨来た！⟩

ねぇねぇねぇ あれ 三田先生じゃない？

(静香) あっ｡

(麻美) 三田先生｡

お久しぶりです｡ >> お久しぶりです｡

(三田) おぉ～… 近藤と 田上？

(麻美) あぁ そうです｡ >> そうです｡

うわ 久しぶりだな 元気か？

(麻美) はい！

(静香) 元気です｡

(三田) そっか そっか｡

(麻美) ⟨現在 ９時５分⟩

⟨例の電車が ９時17分⟩

⟨しーちゃん ごめん ちょっと協力して⟩

２人は今日 何だ？

(麻美) いや ホントにここで たまたま ばったり会って｡

ねっ？ >> そう ４年ぶりに｡

はぁ～ そうなんだ｡

(麻美) それで今しーちゃんの悩みを ちょうど聞いてたら結構 長くなっちゃってね｡ >> 悩み？

そうなんです ちょっと 相談に乗ってもらってて｡

相談 何の相談だ？

(麻美) いえ 込み入った話なんですけど｡

もしあれだったらさ 三田先生に今聞いてもらったら？

>> どうした？

(麻美) 今しーちゃん あの… いい？

結婚生活で いろいろ悩んでて｡ >> そうなのか｡

田上の旦那さんって福田だっけ？

あぁ そうです｡ そうだよな？

確か音楽やってるんじゃ なかったっけ？

やってます バイトしながらですけど｡

そうなのか 大変な世界だもんな｡

いや～ 私的には 生活もあるしそろそろ現実 見てほしいなって 思ってるんですけど｡

本人 全くそのつもりなくて｡

まぁ まだ20代だし なかなか諦めきれないよな｡

(麻美) でも家庭がありますからね｡ >> まぁな｡

しかも 売れるまで 子供はいらないって言ってて｡

正直どうしようかなって思ってて｡ >> なるほどな～｡

(麻美) あの～ もしあれだったら 立ち話もなんなんでちょっとお茶しませんか？ >> お茶？

(麻美) ちょっと内容も内容なんで もしよかったら そこのガストで｡

お茶か… 先生 そんなに時間ないんだけど｡

(麻美) ⟨これは断りづらいはず⟩

じゃあ電車１本だけ遅らせるよ｡

(麻美) ありがとうございます｡ >> え～ 何かすいません｡

(麻美) ⟨よし⟩

⟨ガストに来ちゃえば こっちのもの⟩

⟨あとは10分ほど ここでしゃべればﾐｯｼｮﾝｸﾘｱ⟩

なるほどなぁ～｡

う～ん… あっ ありがとう｡

でも先生は離婚 考えるのは まだ早いと思うけどな｡

(麻美) ⟨ん？⟩

(静香) そうですかね？

福田は 田上が そこまで真剣に悩んでる…ってことは知らないんだろ？

そこまでは話してないですね｡

だったらまずは 田上が今 抱えてる不安を素直に打ち明けてみて 福田の考えも聞いた上で例えば音楽を続ける代わりに 何か約束事を決めるとか次の期限を決めてもらうとかして まぁ お互いがこう歩み寄ることが大事だと思うな～｡ >> なるほど｡

(麻美) ⟨何だか風向きが…⟩

(三田) それでも 折り合いがつかないなら離婚も仕方ないとは思うけど今の段階で 離婚と結びつけるのは先生は早いと思うな｡ >> ですよね｡

(麻美) ⟨ヤバい このまましーちゃんが 踏みとどまってしまうとあの子が生まれなくなる⟩

⟨もちろん しーちゃんにだって⟩

(夏希)〔今は職場の人と付き合ってて もうすぐ結婚するんだって〕

(麻美) ⟨たどり着く幸せがある⟩

でも別に しーちゃんも 話してなくはないんだよね？

まぁ ある程度は｡

(麻美) でもすぐに ケンカになっちゃうんだよね｡

まぁ でも本人も 焦りは感じてるはずだろうからつい感情的に なっちゃうんだろうな｡

そうなんですかね｡

(麻美) でもそれで 何かするわけでもないし本人は売れればいいとしか 思ってないから結局 状況は変わらないまま 時間だけ過ぎていっちゃう…｡

>> まぁ そうだね｡

(麻美) あと福ちゃんってず～っと学生時代から チヤホヤされてきてるからプライドが高い っていうのもあるんだよね？

それはあるかもね～｡

(麻美) だから結局まともな 話し合いにならないまま終わっちゃうんだよね～｡

(三田) ん？

近藤は２人を離婚させたいのか？

(麻美) いや別に そういうわけではないですけど｡

にしては 人の旦那のこと 結構 言うよな｡

(麻美) 私にとっては 幼なじみでもあるんで｡

ねぇ？

(三田) それはそうだけど｡

(麻美) あと私はやっぱり しーちゃんが 幸せになるっていうのを最優先に考えてしまうので もし決断するんだったらやはり早いほうが いいのかなと思って ねっ？

まぁな～…｡

(麻美) ⟨あっ ９時18分 よし ミッションクリア⟩

先生 そろそろ 電車の時間…｡

えっ？ あ～ まぁでも次 34分だからあと10分くらいなら｡

(麻美) いやいやいや…｡

さすがにもう引き留めるのは 申し訳ないんで｡

ん？ 次の電車まだだから平気だよ？

(麻美) いやいやいや… でもそこまで していただくのはホントに心苦しいんで ねっ？ >> うん｡

じゃあ まぁ 後は任せるけど｡

取りあえず 田上｡ >> はい｡

福田ともう一度 よく話し合ってみな｡

はい ありがとうございます｡ >> まぁ ２人とも｡

時間があったら 学校にも遊びにおいで｡

はい｡ >> うん じゃあな｡

ここは ごちそうになっていいのかな？

あっ…｡ >> 冗談だ フフフ…！

じゃあな｡ >> ありがとうございます｡

何かミタコング丸くなったね｡

(麻美) ねぇ 結婚したからかな｡

えっ！ 結婚したんだ｡

(麻美) 今 奥さんのお腹の中に 赤ちゃんいるんだって｡

そうなんだ～ そりゃ早く帰んなきゃだよね｡

(麻美) そうだよね～｡ >> 何か悪いことしちゃったな｡

麻美ちゃん ありがとね｡

(麻美) ホントに全然 何にも大したこと 言ってあげられなくてホントごめん｡ >> ううん｡

聞いてもらっただけで だいぶ気持ち楽になった｡

(麻美) ⟨こうして 半ば強引ではあったけどミタコングを無事救出し ２人の未来も変えずに済んだ⟩

⟨そして もちろん…⟩

あ～… これ最高だね｡

(麻美) よかった｡

(遥) 頭 お風呂でやるやつだからね｡

(寛) あ～…｡

(久美子) お母さんも誕生日の時 欲しいな｡

(麻美) ⟨サイドミッションもクリア⟩

(麻美) ⟨定期ミッションその３⟩

(遥) 今は何の研究してんの？

(麻美) 今？

今は がんゲノムとかエピゲノムの 分野かな｡

がんの原因になる遺伝子異常とか 遺伝子修飾の研究をやってる｡

へぇ～｡

ごめん さっぱり分かんない｡

(麻美) あぁ そうだよね｡

ていうかさ お姉ちゃん人生２周目でしょ｡

(麻美) え？

>> え？ じゃないと つじつま合わなくない？

(麻美) 何が？

だってさ お姉ちゃん 小中高 ずっと成績トップだったでしょ｡

(麻美) あ～ まぁ そうだね｡ >> そんなの１周じゃ無理だよ｡

(麻美) そんなことないよ｡ >> 私なんかお姉ちゃんの妹ってことで 超ハードル上げられるからね｡

(麻美) そうなの？ >> そうだよ｡

入学初日に 先生から軽く一目置かれるの｡

それで大体 １学期 終わるころに 何か あれ？ってなんの｡

(麻美) でも 遥だって 結構 成績いいでしょ？

そう！ 私もそこそこ良かったよ 学年でトップ５に入るし｡

(麻美) すごいじゃん｡ >> 違うんだって～｡

お姉ちゃんがすご過ぎて あんまり 褒めてもらえないんだって｡

(麻美) でも 寛と久美子は 褒めてくれるでしょ？

２人は全褒めだよ 親だもん｡

(麻美) だったらいいじゃない｡ >> う～ん｡

(麻美) 何？ 全然 納得いってないね｡

秀才の妹も大変ってことだよ｡

(麻美) 勉強 教えてあげたりしたじゃん｡ >> うん まぁね｡

(麻美) フフ…｡ >> フフ…｡

(麻美) ちなみにさもし私が ２周目とかだったらどうする？

２周目だったら？

ん～… う～ん…｡

特に何もしないかな｡

(麻美) そうなんだ｡

別に どうすることもできなくない？

(麻美) まぁね｡

>> あっ 結婚相手 聞く｡

(麻美) あ～ なるほどね｡

>> お姉ちゃん 知ってる？

(麻美) いや 知らないかな｡

何だよ １周目かよ～｡

(麻美) 何か ごめんね？ >> いいよん｡

(麻美) おじいちゃん このお薬と…｡

⟨今回は 医学部を卒業しているので簡単に信用してもらえた⟩

(祖父) 麻美が言うんなら 間違いないだろう｡

(祖母) うん｡

(麻美) ありがとう｡

>> さすが医学部卒｡

(麻美) どうも｡

>> １周目だけどね｡

(麻美) ごめんね～｡ >> いいよん｡

(麻美) ⟨こうして今回も無事…⟩

(麻美) ⟨ミッションクリア⟩

⟨定期ミッションその４⟩

(玲奈) やってたね～ セーラームーンごっこ｡

(麻美) マーキュリー 好きだったでしょ｡

⟨今回は 玲奈ちゃんの来る時間が 分かっていたので午前中から張り込まずに済んだ⟩

⟨それなのに連絡先の交換を許してしまった⟩

⟨となると 早起きして これもやんなきゃいけない⟩

⟨あ～ マジでだるい 全部 あいつのせい⟩

(窓をノックする音)

(宮岡) ホントにそんな 変な意味はないですから｡

(宮岡) もういいですか？

(麻美) は？ 何かさっきから変なヤツに絡まれちゃった みたいな顔してますけどそもそも そっちが 疑わしい行動してなければ私だって こんな朝早くから 来てないですからね｡

だから そういうんじゃないって 言ってるでしょ？

(麻美) そういうんじゃないって既婚者が わざわざ結婚指輪を外して連絡先を交換してる時点で 怪しまれるのは当然ですよね？

あっ 何なら奥さんに 確認しましょうか？

>> はぁ？ 何を？

(麻美)｢旦那さんて 普段 食事中結婚指輪 外されるんですか？ というのもですね昨日 夢庵で 若い女性と 連絡先を交換してる時に結婚指輪を外されてて…｣｡ >> 分かった分かった…！

もう連絡しないから それでいいでしょ？

(麻美) 約束ですよ もし彼女が 悲しむようなことがあったら私 許さないんで｡ >> 分かったってば｡

(麻美) あと お店の鍵は ご自分で 開けたほうがいいと思いますよ｡

はぁ？

え…？

(麻美) ⟨ミッションクリア⟩

⟨だいぶ 八つ当たり気味だったけど⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “白日”

(麻美) ⟨大学院卒業後 30歳で私は 晴れて研究員になった⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ ⟨朝 ８時30分 出勤⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ ⟨といっても 特に時間が 決まっているわけではなく(ｲﾔﾎﾝ)♪～ 出勤時間は 人によって まちまち⟩

おはようございます｡

⟨ラボでの服装は 基本的に自由⟩

⟨どうでもいいけど クロックス率が高い⟩

(麻美) ⟨ここではみんな一日中 それぞれの実験をしている⟩

(麻美) ⟨といっても 実験はうまく いかないケースがほとんどで毎日 試行錯誤を繰り返しながら少しずつ形にしていくしかない⟩

⟨この気の遠くなるような作業が 肌に合わず精神的に 参ってしまう人もいるらしい⟩

⟨ただ 私はこれまで…⟩

(市民)〔何とかならないの？〕

(麻美) ⟨厳しいクレームやささいなミスも許されない プレッシャー⟩

⟨高難易度のパズル⟩

⟨さらには 死まで経験しているので割と平気⟩

⟨ちなみにラボには 共用の顕微鏡があって私もよく使うのだけど この時前の人が自分の見やすい設定に したままにしていることがあって その場合いちいち ピントや光量を 直さなければいけないのでそれは毎回イラっとする⟩

⟨13時 昼食は学食で先輩の 多江さんと食べることが多い⟩

(多江) 特に松田さんの後ね｡

(麻美) そうです そうです｡

私 あれ何回か言ったんだけど 全然 直さないのよ｡

(麻美) 言ったんですね？ >> うん｡

(多江) あの人さ ポスドクとしては 優秀なんだけどそういうとこ 若干 欠落してるよね｡

(麻美) 確かに ちょっと変わり者かもですね｡

>> でも学生には人気あんだよね｡

(麻美) そうなんですね ふ～ん｡

何かさ ああいうめちゃくちゃ賢いのにだらしない感じが 逆に 天才っぽくて引かれんじゃない？

(麻美) 実際 天才ですしね｡ >> でもさ顕微鏡のピント戻さなくても いいほどの天才ではないよね｡

(麻美) 確かに ピント戻さないんだったらもうちょっと天才じゃなきゃ いけないですね｡

>> だよね｡

(麻美) うん｡

ちなみに ピント戻さなくてもいい 天才って誰だろうね｡

(麻美) あ～ 今だったら 藤井聡太君とかですかね｡

>> あ～ 彼は戻さなくてもいいね｡

(麻美) あと大谷翔平とか｡

うん 戻さなくていい 何なら全部 出しっぱでもいい｡

(麻美) そうですね｡ >> あとメッシね｡

(麻美) うん サッカーの｡

あのドリブルは ピント戻さなくていいね｡

(麻美) そうですね｡

⟨誰も顕微鏡を使わないけど⟩

⟨昼食が済むと また実験の続き⟩

⟨ちなみに一日の就業時間は 特に決まっていなくて18時に帰る人もいれば24時過ぎまで やっている人もいる⟩

(麻美) ⟨そんな感じで私はひたすら 研究に没頭する毎日で…⟩

⟨あっという間に ３年の月日がたった⟩

⟨今のところまだ これといった 成果は上げられていない⟩

⟨だから当然ピントはちゃんと戻している⟩

(麻美) ⟨そんなある日 実家に帰ると…⟩

今度の日曜さ 遥が彼氏 連れてくるんだけどね｡

(麻美) へぇ～ そうなんだ｡ >> うん｡

(麻美) 遥が彼氏 連れてくるのって 初めてなんじゃない？

あぁ 初めてだね｡

(麻美) へぇ～｡

これって あれかな？

娘さんを僕に下さい的な やつかな？

(麻美) そうかもね｡ >> だよね｡

(麻美) いいじゃん いいじゃ～ん どうすんの？ ＯＫするの？

え… 基本的にはＯＫだよ｡

よっぽど 反社会的な人じゃない限りね｡

(麻美) さすがに そんな人は 連れてこないでしょ｡

あ～ まぁ そのへんはお父さんも 心配してないんだけどね…｡

(麻美) え？ 何？ 何か他に 心配なことがあるの？

ん～… いや 問題は微妙なラインだった時だよね｡

(麻美) 微妙なライン？ >> うん｡

明らかにヤバそうな人なら 反対すればいいんだけどさそうじゃなくて 反対するほどじゃないんだけど何かちょっと嫌だなっていう ラインってあるじゃない｡

(麻美) 例えば？ >> 何か ここにｻﾝｸﾞﾗｽぶら下げてたりとかさ｡

(麻美) ハハっ ちょっと嫌かも｡

>> でしょ？

(麻美) あと あれでしょ？

無駄にさ シャツのボタンを開けて 素肌を見せてる感じの人とか…｡

そうそうそう… 反対するほどじゃ ないんだけどさ何かちょっと嫌じゃん｡

(麻美) うん 嫌だね｡

分かるよ でも遥が選ぶ人だから 大丈夫だと思うけどね｡

まぁね｡

(麻美) そうか～ 遥も結婚か｡

こういうのってさ こっち側ってどんな服装で 迎えればいいのかな｡

(麻美) こっち側？

娘さんを僕に下さいって 言われる側の服装｡

(麻美) 言われる側は…｡

普通でいいんじゃない？

いや 普通っつっても さすがに これじゃまずいでしょ｡

(麻美) あっ さすがに それはまずいかもね｡

一応さ 一軍の服にしとけば？ >> あっ ありがとう｡

一軍ね… あっ 一軍か｡

ちょっと待ってて｡

あぁ 一軍ね 一軍か｡

(寛) ここかな｡

どう？

(麻美) うん いいんじゃない？

清潔感あるし｡ >> だよね｡

じゃあ これにしよ｡

(遥) 上がったよ～｡

(麻美) お父さん 先に入っていいよ｡

(寛) ホント？ じゃあお先｡

(麻美) ねぇねぇ どうする？ これ｡

>> 冷蔵庫 入れといて｡

(麻美) 分かった｡

あんみつあるよ｡

(遥) うん ありがとう｡

(麻美) ねぇ 今度 彼氏 連れてくるんでしょ？

>> そうそう お父さんに聞いたの？

(麻美) そうそう｡

それって やっぱりあれなの？ 娘さんを僕に下さい的なやつ？

違うよ｡

(麻美) 何で来るの？ >> 棚作るの手伝ってもらうの｡

(麻美) ⟨こうして後日 遥の彼氏は…⟩

(遥) ただいま～｡

(久美子) おかえり｡

(賢治) 失礼します｡

(久美子) こんにちは いらっしゃい｡

どうも 初めまして 中山賢治と申します｡

あっ どうも｡

(麻美) ⟨一軍の服の父に迎えられ…⟩

>> 違う違う…！ 逆 逆 逆…！ >> えっ？ 逆？

(麻美) ⟨遥の棚を組み立てて…⟩

(遥と賢治の話し声)

(賢治) お邪魔しました｡

(麻美) ⟨一軍の服の父に見送られ 帰っていった⟩

>> お邪魔しました｡ >> あぁ いえ｡

(麻美) ⟨ちなみに サングラスとボタンの件は大丈夫だったらしい⟩

⟨そしてまた実験の日々⟩

⟨ところで こうやって病気の原因となる 微生物を見ているとたまに思うことがある⟩

⟨この微生物も実は前世は 人間だったりするのかなと⟩

⟨そして 必ず彼を思い出す⟩

⟨そんな感じで 実験に没頭する毎日は続き…⟩

⟨私も今年で35歳⟩

⟨一応 自分史上 一番長生き⟩

⟨ちなみに研究医としては 今のところ医学界に革命を起こすような 発見はできていないけどこの５年で小さい成果は いくつか上げることができ…⟩

(多江) おっ 論文載るの 今日だったんだ｡

(麻美) そうなんですよ｡ >> おめでとう｡

(麻美) ⟨医学界に多少の貢献は できていると思う⟩

>> 近藤さん おめでとう！

(麻美) ありがとうございます｡

(多江) 近藤さん おめでとう…｡

(麻美) ありがとうございます｡

(多江) そういえば臼井さんから メール来ましたよ近藤さんの読んだって｡ ＼今は どこにいるの？／

(多江) 今ね アメリカ 一回行って その後 半年後にシンガポール…｡

(麻美) ⟨もう ウニとは言わせない⟩

♪～

(麻美) ⟨そんな中 ついに遥が結婚⟩

⟨相手は あの時の彼氏 中山賢治君⟩

⟨どことなく うちの父に似ている 気がしないでもない⟩

⟨４回目の人生で初めて迎える 遥の結婚⟩

(拍手)

(麻美) ⟨そういえば…⟩

>> 〔結婚相手 聞く〕

(麻美)〔あ～ なるほどね〕

>> 〔お姉ちゃん 知ってる？〕

(麻美)〔いや 知らないかな〕

〔何だよ １周目かよ～〕

(麻美) ⟨次は教えてあげられるな⟩

⟨次があっちゃいけないけど⟩

(拍手)

(麻美) ⟨それにしても あの遥が結婚とは感慨深い⟩

(久美子) 〔男の子かな？ 女の子かな？〕

(寛)〔どっちだろう〕

(麻美)〔女の子がいい！〕

(久美子)〔女の子がいいの？〕

(麻美)〔遥 いくよ～ よいしょ！ おりゃ～！〕

(久美子) 〔お誕生日おめでとう！〕

(寛:麻美)〔おめでとう！〕

(遥)〔いただきま～す〕

〔ハハハ…！ ハハハ…！〕

♪～

(麻美) ⟨長生きはするものだ⟩

⟨いや 長生きではないか⟩

⟨あっ でも 合計で 130年以上 生きてるから長生きは長生きか⟩

⟨まっ どっちでもいいや⟩

(麻美) ⟨とにかくナイス！ 遥！⟩

♪～

(麻美) ⟨地元に帰ったついでに 久しぶりに まりりんとお茶⟩

それでね 96ウェルプレートっていう小さい穴が96個空いてる容器が あるんだけどそこにね 無色透明の液体を入れてくの｡

でも 液体が無色透明だから油断すると どこまで入れたか 分からなくなるんだよね｡

>> うわ～ それ神経使うね｡

(麻美) そう しかも分からなくなったらもう１回 最初からやり直し｡ >> えっ それってさ途中で声かけられたりしたら ヤバいよね？

(麻美) ヤバいヤバい 終わる｡ >> だね｡

うわ～ すご～い｡

(麻美) まりりんは？ お仕事どんな感じ？

>> 私はね 体調管理が一番大変だね｡

(麻美) あ～ そうだよね｡

何か毎年 身体検査があるんだけど それがもう超厳しいの｡

(麻美) 厳しいってどんぐらい？

血液 脳波 心電図 視力 聴力 鼻の通気量あと 平衡感覚とか とにかくいろいろ｡

(麻美) もうそれ 全部じゃん｡ >> もう全部｡

で １個でも引っかかったら しばらくフライト禁止だからね｡

(麻美) はぁ～ じゃあ風邪もひけないってこと？

もう ひけないひけない｡

(麻美) 私には無理だな～｡ >> ハハハ…｡

(麻美) じゃあ あれだ まりりんは 常に超健康ってことだ｡

>> あ～ そうだね 超健康優良児だね｡

(麻美) すごいね｡

｢優良児｣ではないけどね 35だからね｡

>> あ～ そっか 優良人だね｡

(麻美) 優良人だね｡

保証人みたいだね｡ >> 確かにね 同じだね｡

(夏希) 麻美ちゃん？

(麻美) なっち？

(美穂) あっ 真里ちゃんだよね？

(夏希) あ～ 真里ちゃんもいる｡

>> 久しぶり～｡

(夏希) お久しぶり｡

(美穂) あれ？ 成人式以来… かな？

(夏希) そうだよね｡

(麻美) 15年ぶりくらい？

(夏希) え～ もうそんなたつんだ｡

(美穂) すご｡

(夏希) ねっ 元気？

(麻美) 元気 ２人は元気？

(美穂) うん｡

(夏希) 元気だよね｡

(美穂) 元気｡

(麻美) そっか～｡

♪～>> “secret base ～君がくれたもの～”

(夏希) ねぇ～…｡

(美穂) ビックリしたね｡

♪～>> “secret base ～君がくれたもの～”

(夏希) ねっ また みんなで カラオケ行こう？

(麻美) うん 行こう行こう｡

(美穂) 行きたいね｡

(夏希) じゃあ ねぇ また…｡

(美穂) また～｡

(夏希) またね～… うちら外なの｡

(麻美) あっ そうなの？

(夏希) またね～｡

ビックリした～｡

>> ２人とも変わんないね｡

(麻美) ねぇ 変わんないね｡

ああいう時ってさ ちょっと迷わない？ >> 何が？

(麻美) あのさ お久しぶり～の流れでさ そのまま ここ座ってさ一緒にお茶するパターンも あるじゃん｡

あ～ 私 一瞬 そうなるパターンかなと思った｡

(麻美) そうだよね でもさ２人が そんなつもりじゃなかったら悪いから こっちからは言いづらいよね｡

言いづらいよね まぁ 向こうも そうかもしれないけどね｡

(麻美) でもさっきもさ 一瞬 これどっち？みたいな空気が流れたよね？ >> あ～ 流れたね｡

(麻美) ねぇ～｡

私が言ったら ２人 ここ座ってたかな｡

>> どうだろう まぁ 微妙だよね～｡

(麻美) 分かんないよね～｡

何かさ これぐらいの距離感の 同級生って難しいよね｡

(麻美) 難しいね｡

⟨元々は そんな距離感じゃ なかったんだけどね⟩

(３人) 〔♪～ また出会えるのを信じて〕

あっ そうだ｡

(麻美) うん？ 何？

こないださ こんなの出てきたの｡

(麻美) えっ？ わっ 懐かしいね～！ >> でしょ？

(麻美) これ 中学の時だ｡ >> うん｡

これ ラウンドワンが出来て すぐだよね｡

(麻美) そうだっけ？ >> そう で これをきっかけに話すようになったんだよ｡

(麻美) そうか これがきっかけだったか｡

そうだよ あーちんがプリ機の前でさ１人で たたずんでたんだよ｡

(麻美) えぇ？

そう？ 全然 覚えてないな｡

⟨ホントは超覚えてる⟩

中２とは思えない哀愁が 背中からバ～って出てたよ｡

(麻美) え～？ ホント？

⟨それはきっと130歳の哀愁⟩

で 私が声かけて で このプリ撮ったんだよ｡

(麻美) そうか～…｡

そういえばさ 前から聞きたかったんだけど…｡

(麻美) うん 何？

あーちん 何周目？

(麻美) えっ？ 何？

何周目？ 人生｡

(麻美) 人生…？

え…｡